



2019年7月に、京都上賀茂(下鴨)神社、八坂神社、籠神社

2020年2月に、鞍馬寺、貴船神社を訪れて以来、これまであまり意識していなかった

“瀬織津姫”の事が、なんとなく身近に感じられるこの頃です^^

地元石川県にも、瀬織津姫を祀る神社があった事をふと思い出し、嬉々として出かけました！

一度目(2020年5月24日)は間違えて、裏側、山手の方から入ってしまったようで

緑鮮やかな、清々しい竹林が続いていました



別所町は筍の名産地で、子供の頃家族皆で
わざわざ山奥(笑、白峰村)から、美味しい筍料理を
食べに来ていた事を、思い出しました^^



竹林を背にした小高い場所に、こじんまりとした社殿が見えてきました
黒く艶やかな屋根から、“黒龍”が連想されます
“黒龍”は“九頭龍”でもあり、強大なパワーを持つ白山神界の守護龍との事
水(川)の神とされる瀬織津姫とのつながりを感じます^^



社殿裏側に回ってみると、食べ損ねた筍(竹の子)発見！(笑)
植物というより、動物？のような。。



何故か見入ってしまいました^^

竹林から連想されるものに、“かぐや姫”や“月”があります
そう言えば、なんとなく、“瀬織津姫”と“かぐや姫”が重なって感じられるのは何故かしら？

有名な『竹取物語』は、日本最古の物語で、年代も作者も不明との事
何やら意味ありげ…(高次の意図?)ですね^^

遙か昔、絵本で読んだあらすじを思い出してみると…

—— 竹細工で細々と暮らす老夫婦が、ある日竹藪で、一本の光る竹を見つけます
不思議に思い切ってみると、中から小さな女の子が現れ、神様からの授かりものに違いないと
家に連れて帰り、籠の中に入れて、大事に大事に育てます
それ以来、竹の中に黄金を見つける不思議が重なり、老夫婦はどんどん豊かになっていきました
あつと言う間に女の子は、輝くばかりに美しい姫へと成長し、“かぐや姫”と名付けられました
その美しさが評判となり、熱心な5人の求婚者や、時の帝からも誘いを受けますが
無理難題を押し付け、すべて断ってしまいます

ある時、月を見て泣いてばかりいる姫を心配し、老夫婦がその理由を尋ねると
「本当は、自分は月の住人であり、今度の満月の日に、月から迎えが来ることになっている…
おじいさん、おばあさんとお別れする事が、とても悲しい」、と言うので
おじいさんは帝に頼んで、姫が連れていかれないよう、家のまわりを沢山の兵で囲みますが
煌びやかな月の使者が現れると、誰もが力が抜けたように動けなくなってしまい
かぐや姫は泣きながら、月へと上って行ってしまいました —— という、美しく、切ない物語でした
今回あらためて読んでみると、全く記憶になかった所もあり、ものすごく興味深かったです
物語とは、読む側にとっての物語であり、∞のストーリー、可能性があるのだと、改めて感じました^^

私の過去の記憶になかった内容としては

○「かぐや姫は罪を犯した為に、地球に来る事になったが、もう帰る時が来たので迎えにきた」
と記されていること、

○月からの使者によって“天の羽衣”を着せられた途端

地球での老夫婦との大切な思い出も、全部忘れて帰って行ってしまった事

○帝は、月へ帰るかぐや姫から「不死の薬」を渡されたが、もはや何の意味もないと
日本一高い山で燃やしてしまい、それが「富士山」の名前の由来となっている事、等です
少女の夢が壊れてしまいそうですが…。(笑)

私にとっての『竹取物語』パートⅡ！は

日本最古のSFファンタジーであり、中今ノンフィクション！？

かぐや姫は、月からやってきた、進化した地球外生命体(宇宙人)？であり

その時迎えに来たのはUFOだった?!です^^

かぐや姫は、一体どのような罪を犯したのでしょうか？

瀬織津姫社を訪れた時、すごく印象的だった光景と、何か関係があるような気がします…

瀬織津姫は「大祓詞」に出てくる、祓戸四神の最初の一柱です
一度目の参拝では、「大祓詞」がきちんとあげられなかった^^;事が、とても残念で
6日後の5月30日、白山比咩神社にて早朝参拝の後、再び出かけました！
今度は、正面の鳥居からです^^



チョコンと小さな龍の口の手水舎ですが、鳴門の渦潮が連想されます^^

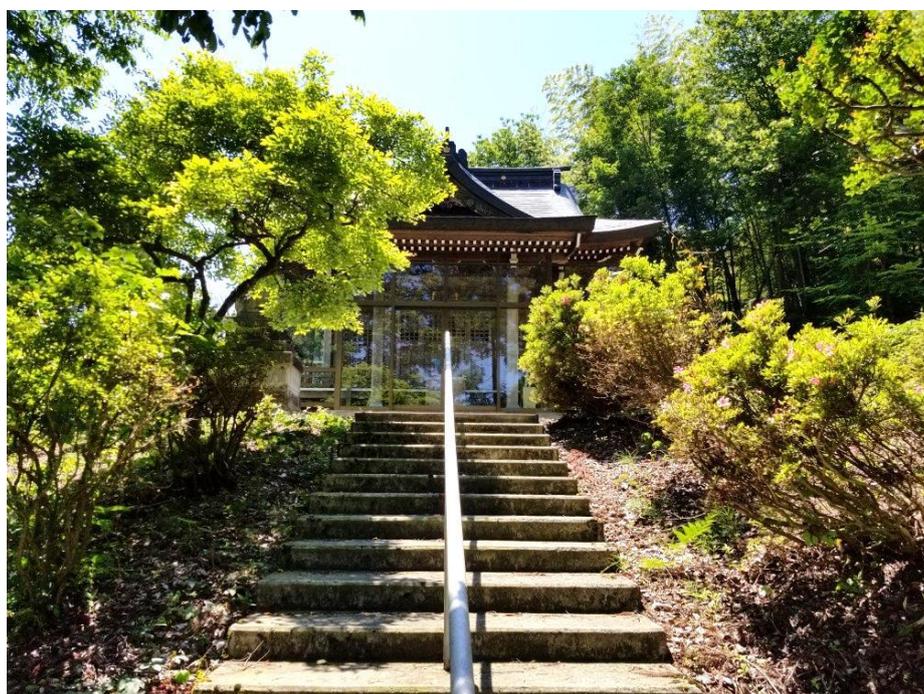


その場にあった由緒書きに、主祭神は“大禍津日神（おおまがつひのかみ）”とあります
神産みで、黄泉から帰った伊邪那岐命が、黄泉の穢れを祓った時に生まれた神で

“災厄を司る神”とされていて、それと対照的とも言える“祓戸大神”である瀬織津姫が何故、同一神とされているのでしょうか？ 一見矛盾している感じがしますが、表と裏、陰陽が統合された神道においては、自然な事なのかもしれません。人類が、これまで知らず知らずのうちに積み重ねてきた禍事、罪穢れを、全て背負うセオリツヒメ…、と浮かびました^^ 大きな母性愛を感じます



本殿へと、石段が続いています





携帯を構える小人の姿が？(笑)

見るものを写すクリスタルの扉、真澄鏡——



その奥にあったのは、瀬織津姫の心？=私の心？！



瀬織津姫の思いが、真っ直ぐ伝わってくるような気がします^^

竹取物語の中で、かぐや姫の住む月には、老いとか、悲しみというものは存在しないとされ

それは、肉体という衣を着た、“永遠の真の自己”である

“魂”の世界(愛と光 100%、5次元)の事を表しているのではないのでしょうか

私達が肉体を持ち生きている地球は、人として様々な感情を味わい、そのバランスを磨き

“心”=“ハートと魂”を、より豊かに、大きく、強く、進化させていくための

“∞の愛”の体験と学びの場であるのだと思います

3次元から∞次元(根源)まで、あらゆるすべてを経験することが可能な

この地球に生きる事でしか成し得ない、“究極のアセンション”でもあるのだと思います

瀬織津姫(かぐや姫)は、心の世界(地上)に憧れ、生きたいと願った——

その為に、“真の自己を忘れる”=“かぐや姫の罪”と感じます

そしてかぐや姫は、本当の自分を思い出してしまったが故に、もう地球にはいられなくなった…

かぐや姫から託された「不死の薬」を燃やしてしまった“帝”とは、

地上に残された、真の自己を完全に忘れてしまっている“私達”そのものであり

すべてがその時、終わったかのように見えた

.....

実はかぐや姫もまた、私達自身の事であり、月には帰っていないのだとしたら——？

中今最新『竹取物語』パートⅢのはじまりです！(*^^*)

瀬織津姫(かぐや姫)はもう、天の羽衣を着せられても、決して全てを忘れる事はないのです

完全に覚醒した意識、フルコンシャスで地上にあるのが
今はじまっている、スーパーアセンション＝“地上から根源へのアセンション！”であり
人類だけでなく、宇宙の全ての命が帰る場所＝“根源”は、今ここ“地球”です

かぐや姫は、UFO に連れ去られてしまったのではなく、
この地球を、高度に進化した壮大な宇宙へと解放していく為の、秘(姫)神だった?!
物語は物語ではなく、ノンフィクション＝アカシックとなり、その主役は私達ひとり一人です!!

以上、私が感じた瀬織津姫からのメッセージでした^^

月とは一体どのような世界なのでしょう？

5月満月ウエサクの日のブログにも書いたのですが、以前、不思議な月を見たことがあります
ふと見ると夜空に、とても大きくて丸い、オレンジ色に輝く物体が浮かんでいます?!
「兎の餅つき」という言葉がピッタリで、そこに大勢が集まって、何かのお祝いをしているような...

喜びの波動が伝わってくる感じです^^

その時は、それ以上の事はわからず、いつの間にか忘れていましたが
あの時見た光景のヒントとなる文面が、『愛の使者』(Ai 著)に記されていました

太陽系を中心とするアトランティスの最盛期は、5次元から8次元で、

魂レベルのものであり、魂の進化を主にしていました

地球では、シャンバラと呼ばれる神都を中心に、レムリアで、現在の人類のひな型となる

肉体の進化と、アストラル体の進化がなされていました

太陽系でのアトランティス期が終わってから、この流れが地球で合流していきました

アトランティス期の最終終了時、太陽系の進化・アセンションを司どっていた高次のマスター達は

神殿を引き上げ、月の裏側に隠したと言われます

そしてアセンションの高次のアカデミーの一部を、インナーアースに残しました

月の裏側には、アセンションを司る高次のマスター方が隠した神殿がある?!

なるほど! 私に見えていたのは、神殿?と考えると、あの時のワクワクが蘇ってきます^^

月は一年を通して、地球に住む私達からは、いつも同じ面(表)しか見る事が出来ないとされます

理由として、自転と公転の周期が同じである等の、明確な科学的根拠があるそうですが

それはそれで、不思議な感じがします

裏側は見せないという、何ものかの意志が働いているのでは?と

“月”にはワクワクする謎が一杯?! 調べていくと浮かんできたのが、“シリウス”です^^

セオリツヒメは、キグリヒメと同じく、シリウスに関連があるとの事

シリウスは長い間、地球を護り進化を助ける、宇宙連合の中心的存在であり、

月はシリウスによって運ばれた衛星で、私達が地球に肉体を持って生きるために必要な

様々なサポート機能を持つ、宇宙ステーションであるとの事？！

地上セルフには、これらが真実であると証明する事は出来ませんが、すごく納得がいきます

この目で見て、ハートで感じたオレンジ色の月は、真実だからです^^

また「月」という文字は、「心臓」、「胃」、「肌」など、私達の肉体を構成している
多くの部位を表す漢字に見られるので、人体と密接な関わりがあるような気がしていました

私がずっと謎と感じていた存在に、三貴子の中の“月読(ツキヨミ)尊”があります

「イザナギの右目から生まれたとされる神。夜を統べる月神。」ウィキペディアより

“アマテラス”や“スサノオ”に比べて、あまり知られていない感じ…

本当は、アマテラスとスサノオしかいなかったのでは？

“ツキヨミ”は、スサノオの持つもう一つの顔、側面、という考え方がしっくりきます

真の“アマテラス”とは、男性性と女性性が統合された“母性性”であり

究極が、宇宙の一なる根源“根源天照(皇太神)”です

その母性から分かれ出た男性性の側面が、一般的によく知られている“スサノオ”で
もう一方の女性性の側面を、“ツキヨミ”と呼ぶのではないのでしょうか？(陰と陽のスサノオ)

そのように考えると、すべての神々が、一本の糸につながっていく感じがします^^

そして月の裏側が見えなかったように、これまで隠されてきた存在なのかもしれません！

神々には、様々な働きと名前がありますが、すべては根源(究極の母性)から生まれた

“男性性”と“女性性”であり、その割合でしかないのだと思います

瀬織津姫は、月の女神“かぐや姫”であり、今この時まで大切に守られてきたのではないのでしょうか？

これからは、“アクエリアス”=“女性性”の時代と言われます

“ツキヨミ”の姫、瀬織津姫の大活躍がはじまっていく感じがして、ワクワクしてきませんか！^^

尽きせぬ謎の月世界。。。ですが、下記は5月6日、自室の窓から撮った月の写真です



同じ場所、同じ時刻、最初に撮ったものが左上で、右下はそのすぐ後に撮ったものです

上段左端に写っているのは何でしょう？

撮る瞬間、ものすごく眩しい光を、すぐそこに感じてビックリ？！

やはり写真にも写っていて、ここには、月が2つあるような感じがします？

例えば、時空の制限がない次元に自身があるとすれば、離れた所から遠くに月をみる事も、

月のすぐ傍まで行く事も可能で、また、それを同時に写し出す事も可能なのでは？

と、私なりに科学的？に考えた末に浮かんだ答えが、

「私達はすぐ傍にいますよ！」という、月の存在からのメッセージでありアピール！

との事？！（ホントか？）

なんだ、それでいいのか？でしたが、いいことにしました（笑）

瀬織津姫社を訪れたことによって

地球、月、太陽、シリウス。。。と、宇宙がどんどんリアルに広がっていく感じがします

肉体という制限の中に生きる私達にとって

“意識”が、宇宙へのスターゲイトであり、その力は∞であることを

様々な経験を通して体感していくことが、アセンションなのだと思います^^

そして今回のアセンションは、超大スペクタクル！！！！

新しい宇宙(NMC)の誕生であり

人だけでなく、この地球も共にアセンションし

新宇宙の核心である、**根源の究極の愛と光の星 = “皇の星地球”**となっていくー！！！！

です(^)/

今回の地球、シリウス、ここの銀河のアセンションは、地球ハイラーキーと、その長のサナートクマラ

シリウスハイラーキーとその長のヴァイワマスの、「シリウス・プロジェクト」でもありますが

それをサポートするのは、アンドロメダ銀河であり、ここの宇宙の最高評議会のアインソフです

.....

旧アンドロメダ領域、そのトップ&コアの“アインソフ”がアセンションして、

現在の、中今最新の、超アセンション宇宙の母体となっているのです

.....

一なる至高の根源、大いなるすべて、ワネスス…。どのような表現で呼ぼうとも

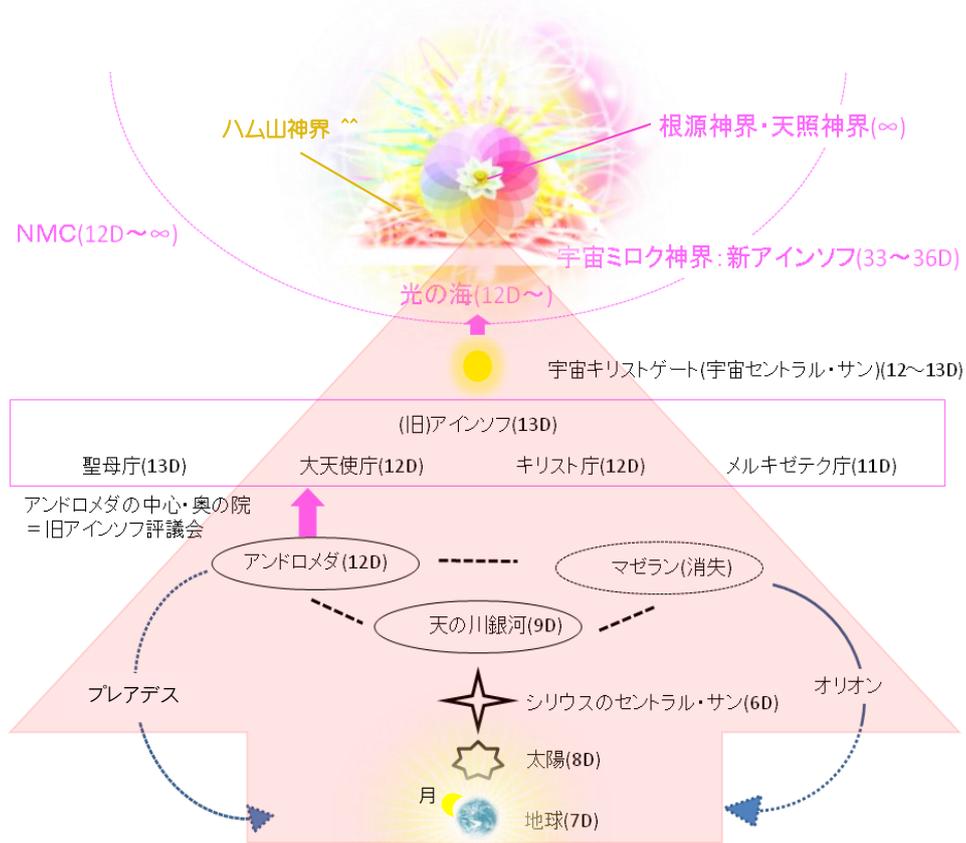
それは皆さん自身が、宇宙の創始の時に出発した本源であり、故郷です

そして、宇宙史すべての成果を携えて、大きく成長してからの、そこへの帰還が、

今、待ち望まれています！

—— 『天の岩戸開き』(Ai 著)より ——

NMC (新宇宙)の核心は “菊の理”
“根源の究極の愛の太陽”が
私達全ての帰還を、見守っています!!!!



2010年に初めて見た時は、チンプンカンプン(笑)だった「宇宙アセンションMAP」です
 (実際はもっと莫大なものがありますが、分かりやすく簡略化したものとの事)

NMCの核心、一なる至高の根源太陽 **“根源天照皇太神”**へと地上セルフを導いてくれたのが

根源の **▲究極の愛の意志の日巫女▲**である

“白山菊理姫”であり、“瀬織津姫”なのだと思います!!

中今最新版?!として、根源天照神界の最強サポート軍団?!

根源の愛と光の**“ハム(白)山神界”!!**

追記しました(^)v



白山神社総本宮である“白山比咩神社”以外に、あまり多くの神(社)を知らない私ですが、NMCAA (NMC・アセンション・アカデミー)に参加(2011年1月)してから、ご縁をいただいた神社に兵庫県西宮市にある“廣田神社”、神戸市にある“生田神社”があります^^

そして、10年近くが経った今頃になって、

ここに全てがつながっていた事に気付いたのでした！！

神戸は「神の戸」であり、地球の創始にアインソフが創った神都のエネルギーが残る場所で
根源からのエネルギーが最初に入ってくる入口、扉となっているとの事です

そして戸隠等(戸に関連する?)の、いくつかの中継点を通して、富士山へとつながるようです

アインソフの中でも、聖母庁のエネルギーが最も強い場所とされ

まさに、菊理姫や瀬織津姫に感じるエネルギー、そのものではないでしょうか？

アカデミーに出会う前から、自身にとってのキーワードの一つだった「弥勒の世」ですが

「弥勒」というと、なんだかわかるようなわからないような…(笑)で

「ミロク」=36色でもあり、アインソフ・アウル(根源の周囲の36色<=∞>の光)をイメージしてみると

アイン(根源)から放たれる∞の色彩のハーモニー、愛と美と調和の世界が見えてきませんか^^

また、六甲山はシャスタ山と対になっていて、シャスタは、主に男性エネルギー(ハイラーキー)

六甲は、女性エネルギー(アインソフ、天照)が中心となっているとの事です

神戸(六甲)の上空には、アンドロメダ(アインソフの母体)の母船がいるのだとか?^^

ものすごいパワースポットですね^^

私にとってのアセンションの学びは、ここからはじまりました

中今、最も重要なことは、場所ではなく“人=日戸”根源の光のポータルです！

場所は限定されますが、人はどこへでも行く事ができ、意識の力は無限大！

意識を動かすのは、“心”=“ハートと魂”です(*^^*)

廣田神社の御祭神は、“天照大御神荒魂”であり、生田神社は“天照大御神和魂”とされます

地味…、もとい、落ち着いた感じの白山さん(白山比咩神社)を見ていた私は
生田神社の、赤を基調とする華やかさ、明るさにはビックリ?! (ウキウキ MAX! ^^)

天照大御神和魂 = 稚日女尊(わかひるめのみこと)

天照大神の幼少の姿とされ、稚くみずみずしい日の女神を、体全体で感じ

内から、喜びとパワーが満ち満ちてきます^^



生田神社本殿 (ホームページより、お借りました)

後方の森には、小さなお社が🍃



生田森坐社(生田の森の守り神) 御祭神“神功皇后”

ハートがビュンビュンする感じ? 赤の中の赤! 強く美しい母心に涙がこぼれそうになります

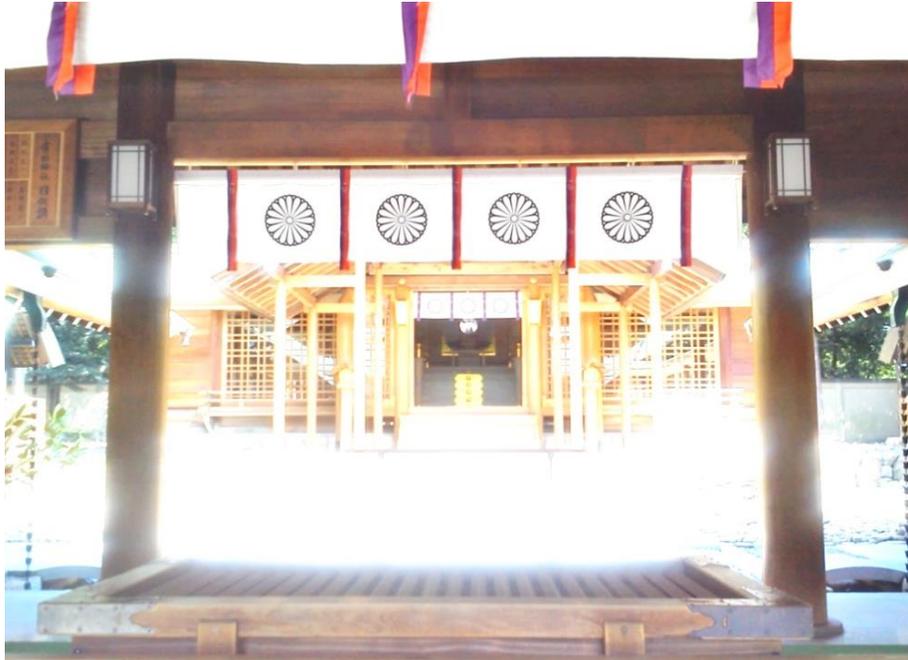
三韓征伐で名高い神功皇后によって創建されたとされるのが、廣田神社です

神社の中心には、天照大神の象徴である“御神鏡”がありますが、

廣田神社の御神鏡は、私にとって特別でした

強烈な光を放つ、究極のクリスタルであり、無防備の愛?とでもいうような——

自己の中心と共鳴する、“むき出しの魂”を感じます



廣田神社 本殿

まさに、“天照大御神荒魂”、神宮皇后であり
中今、宇宙のあらゆる全ての命の源 “根源天照皇太神” 荒魂
それ以外の、何ものでもありませんでした

廣田神社御祭神の別名とされる

撞賢木巖之御魂天疎向津媛命(つきさかきいつのみたまあまさかるむかつひめのみこと)

が“瀬織津姫”だったことを、今回初めて知り、ビックリしました？！

戦前の由緒書きには、「瀬織津姫」を主祭神とすることが、明記されていたとあります

更に下記、ウィキペディアより

「かつて“向か津峰”と呼ばれた六甲山全山は、元は廣田神社の社領であったという。

六甲山大権現を古くからの祭神とする、六甲山神社(むこやまじんじゃ、石の宝殿)と

六甲比命神社(むこひめじんじゃ)が、かつての奥宮と考えられる。」

とあり、六甲山神社は「白山の宮」とも呼ばれ、その御祭神は、なんと“菊理姫”でした！！^^

「六甲山は山伏や天狗に関する多くの伝説があり、昔は山中には 88 の社があって
それらの中心である石の宝殿から、神々が四方の高山へ修行に出たと伝えられるが、
山岳信仰により、中世に白山修験の山伏が開いた、修験道の霊山であったと考えられ、

社殿には白山の古文書が伝えられている。」

私が廣田神社に惹かれるのは、当然だったのですね^^

根源天照皇太神、白山菊理姫、瀬織津姫、私の感じるすべてがここに...

今迄気づかなかった事が、不思議とも言えますが

アカデミーに参加し、Ai先生と出会い、根源(天照皇太神)を常に自身のトップ&コアとして
地上セルフが、地上から一歩一歩間を詰めるように上っていく中で
より強く感じられるようになったのが、“白山菊理姫”であり、“瀬織津姫”だったのだと思います
元はたった一つであったものが、枝分かれし、その源を見失っていただけで
地上セルフがそれらすべてを統合していく道が“根源へのアセンション”なのだと思います
根源の太陽(根源天照皇太神)は、あまりに偉大です!

私にとって、菊理姫や瀬織津姫は、その尊き道しるべであり、やさしい笑顔の姫(日女)神です^^

六甲比命神社御祭神、六甲比命大善神(弁財天・吉祥天)は

撞賢木巖魂天疎向津姫(瀬織津姫)

「瀬織津姫を主祭神としている神社の総本宮と位置づけうる神域とされる。」とあります

六甲は、日の本の全ての女神が、集う場所なのかもしれません^^

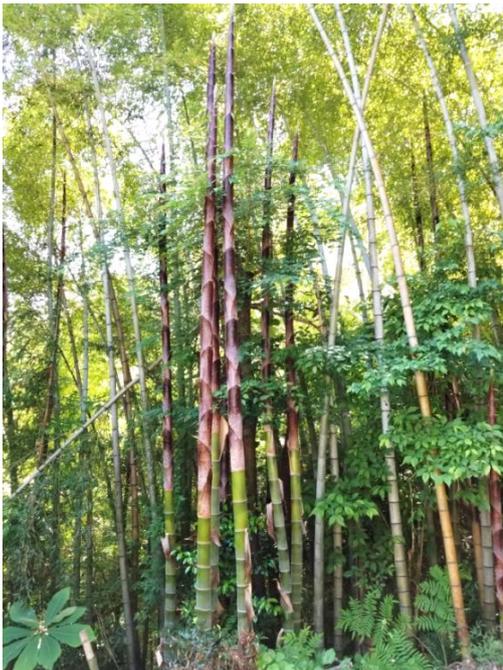
ちなみに、私はまだ見た事がないのですが、六甲比命大善神の御神体の一つは、

巨大な石で、その形が兔にそっくりなのだそうです

「兔の餅つき」と感じたのは、瀬織津姫からのメッセージだったのかもしれません^^

二度目に瀬織津姫社を訪れたとき、また裏側を覗いてみて、ギョ?!

わずか6日の間に、背丈が倍以上も伸びています?!



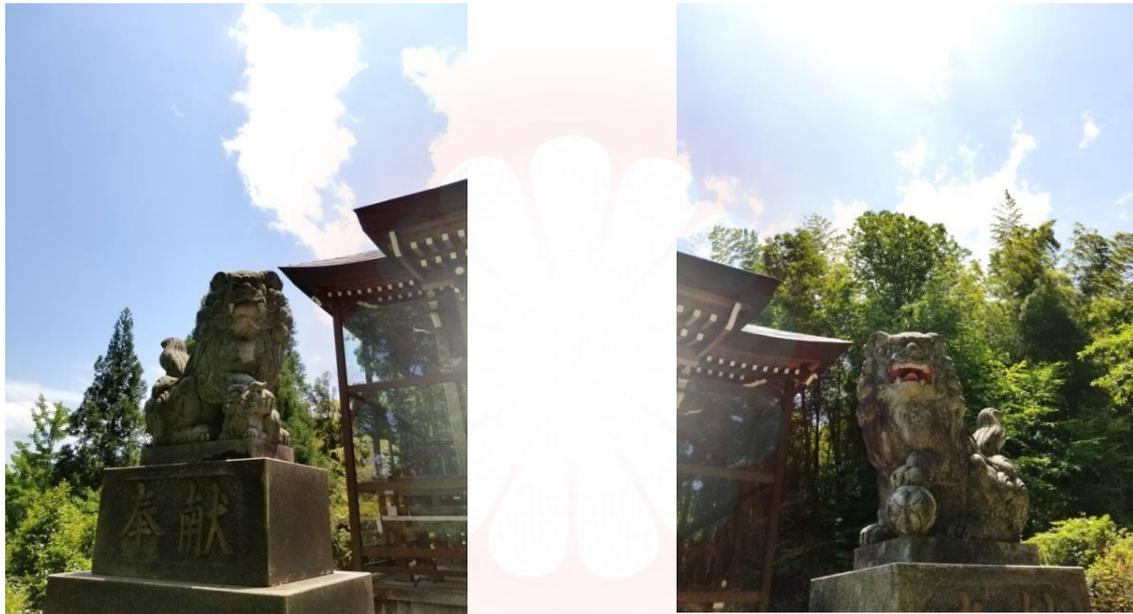
竹は世界一成長の早い植物で、一日に1メートル以上伸びることがあるそうで
恐るべし生命力、自然界の神秘を感じます(見入ってしまった理由?)



浮かんできたのは、「カゴメ歌」

かぐや姫(瀬織津姫)は、竹林に籠められていた龍、“籠の中の鳥”?! だったかも^^

本殿にて、「天津祝詞の太祝詞事を宣れ“根源天照皇太神”」
真心を込めて、自神の大祓詞を奏上し終わると、女性が一人来られたので
「こんにちは！」とご挨拶をして、場所をお譲りしました(本当はもうちょっといたかった、笑)
少し回りを散策して、戻って見たのですが
まだいらっしゃり、残念であると同時に、嬉しい気持ちもして、帰途につきました
瀬織津姫社は、大切にされているのだと感じました^^



ツインの狛犬さん^^

阿吽、α & Ω、始まりであり終わり——

なんとなく可愛らしい感じがして、初々しいカップルが連想されるのですが…

そう言えば、入口を探しながらノロノロと車を走らせていると

突然二羽のハート、鳩(だったような)が飛び出してきて、オッと危ない！

尾や羽根が、とても豪華な感じがして、どこかの王子様とお姫様のように見えました

“ニギハヤヒ”と“セオリツヒメ”

“彦星”と“織姫”であるやもしれません^^ もうすぐ七夕ですね

名前や表現が変わっても、男性性と女性性の統合＝“根源への回帰”なのでですから

誰もが、その幸せを願わずにはいられないのだと思います

瀬織津姫によって織り成された∞の可能性の大地に、大輪の菊が輝く時、弥勒の世がはじまる…

菊理姫は、あらゆるすべてを統合する“ククリの神”であると言われます

どうしてそのような事が可能なのでしょうか？

それは、何にククルのか？が、最も重要なのだと思います

菊理姫の核心に輝くのは
根源の中心に燦然と輝く太陽(根源天照) = “菊の理”であり
あらゆるすべての存在の故郷、究極の愛の源、一なる根源だからです
瀬織津姫も菊理姫も、根源の愛の太陽から生まれた
太陽(愛)の子供(分御魂) “ハム!! ” です^^

これは、物語ではありません(*^^*) v

ハムや姫、みつけた!? (笑)



2020.6.21 根源のハムや姫